

県民榮譽賞受賞者一覧

県民榮譽賞とは

広く県民に敬愛され、県民に希望と活力を与えることにおいて顕著な功績があった者に対して、県民榮譽賞を贈り、その榮譽をたたえる。

これまでの受賞者は、11名(延べ16名)、3団体 ※は、県民榮譽特別賞

受賞者一覧

網掛け部分は、オリンピック関係の受賞者

受賞年月日	受賞者	受賞理由
平成12年10月10日	井上 康生	2000年シドニーオリンピック柔道男子100kg級において、すべて1本勝ちで金メダルを獲得し、県民に大きな夢と感動を与えたとともに、郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成14年5月18日	アイザック・スターン	宮崎国際室内楽音楽祭において、演奏家として、また、指導者として、その力を余すところなく発揮し、この音楽祭を名実ともにアジアを代表する国際音楽祭として発展させた。 地方都市宮崎から世界に向けた音楽文化の発信は、県民に大きな希望と活力を与えたとともに、郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成19年12月27日	田中 幸雄	平成19年5月17日、プロ野球北海道日本ハムファイターズ対東北楽天ゴールデンイーグルス戦において、本県出身者として、初めて2000安打を達成し、県民に大きな夢と感動を与えたとともに、郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成20年9月1日	松田 丈志	2008年北京オリンピック競泳男子200mバタフライにおいて、銅メダルを獲得し、県民に大きな夢と感動を与えたとともに、郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成21年4月8日	青木 宣親	2009年ワールド・ベースボール・クラシックにおいて、日本代表チームの中心選手として、2大会連続となる優勝に大きく貢献し、県民に大きな夢と希望を与えたとともに、郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成23年10月31日	内田 順一	国技である大相撲を行司として50年間にわたり支え続け、本県出身者として初めて行司の最高位である第35代木村庄之助を襲名した。不屈の精神とたゆまぬ努力で、真摯に大相撲と向き合う姿は広く県民に感銘を与えた。 また、平成19年に「みやざき大使」に就任し、本県の県章をあしらった行司装束で結びの一番を裁くなど、本県の名声を高め、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成24年9月11日	松田 丈志※ (2回目の受賞)	2012年ロンドンオリンピック競泳男子200mバタフライにおいて銅メダルを、400mメドレーリレーにおいて銀メダルを獲得し、広く県民に大きな感動と活力を与え、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成24年11月23日	第10回全国和牛能力共進会宮崎県推進協議会	第10回全国和牛能力共進会において、口蹄疫の影響による厳しい条件下、各部門での優秀な成績をはじめ、団体賞での首席を獲得するなど、2大会連続の日本一を達成した。 この快挙は、口蹄疫からの再生・復興を象徴するものであり、畜産農家のみならず広く県民に大きな希望と感動をもたらした。郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成28年5月10日	大迫 たつ子	女子プロゴルフを語る上で欠かすことのできない偉大な存在として、日本のプロゴルフ界において輝かしい実績を残し、多くの人々に感動を与えた功績から、日本プロゴルフ殿堂入りを果たした。 本県出身の女子プロゴルファーとして、県民に夢と希望を与えたとともに、郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成28年10月13日	井上 康生※ (2回目の受賞)	リオデジャネイロオリンピック柔道男子監督として、7階級全てにおいてメダルを獲得し、広く県民に大きな感動と活力を与え、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成28年10月13日	松田 丈志※ (3回目の受賞)	リオデジャネイロオリンピック競泳男子800mリレーにおいて銅メダルを獲得するとともに、個人としては3大会連続となるメダルを獲得し、広く県民に大きな感動と活力を与え、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成28年10月13日	羽賀 龍之介	リオデジャネイロオリンピック柔道男子100キロ級において銅メダルを獲得し、広く県民に大きな感動と活力を与え、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成29年11月23日	第11回全国和牛能力共進会宮崎県推進協議会	第11回全国和牛能力共進会において、内閣総理大臣賞の3大会連続受賞を始め、各部門での優秀な成績をおさめた。この快挙は、真の意味での口蹄疫からの復興を発信するものであり、畜産農家のみならず広く県民に大きな希望と感動をもたらした。郷土に対する自信と誇りを醸成した。
平成29年12月26日	青木 宣親※ (2回目の受賞)	平成29年6月12日(日本時間)、米大リーグヒューストン・アストロズ対ロサンゼルス・エンゼルス戦において、日本人選手7人目となる日米通算2000安打を達成し、広く県民に大きな夢と感動を与え郷土に対する自信と誇りをもたらした。
令和3年12月17日	井上 康生※ (3回目の受賞)	東京2020オリンピック柔道男子監督として、リオデジャネイロオリンピックでの全階級メダル獲得に続く、柔道男子日本史上最多の金メダル5つを獲得し、広く県民に大きな感動と活力を与え、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。
令和4年11月27日	第12回全国和牛能力共進会宮崎県推進協議会	第12回全国和牛能力共進会において、内閣総理大臣賞の4大会連続受賞を始め、各部門での優秀な成績をおさめた。 新たな時代の和牛のあり方として、サシ重視からおいしさへの転換を担う大会を象徴する出品区での内閣総理大臣賞の受賞は、宮崎牛が「日本一おいしい」ことを証明し、宮崎牛のさらなる飛躍につながることを期待され、畜産農家はもとより、県民に希望と活力を与え、郷土に対する自信と誇りをもたらした。
令和5年12月14日	青木 賢児	県立芸術劇場の初代館長に就任し、宮崎から世界に一流の音楽文化を発信するため、自身の人脈や経験も生かしながら、宮崎国際音楽祭の創設及び発展に尽力した。 同音楽祭の創設から長年にわたり、総監督を務め、世界的なヴァイオリニストであるアイザック・スターン氏の招へいの実現をはじめ、同音楽祭を、国内外で高い評価を受け、県民の自信と誇りとなる、アジアを代表する音楽祭にまで育て上げたほか、同音楽祭を通じて県民が世界トップクラスの演奏に触れ、親しみ交流できる機会の創出や、国内外で活躍する数々の演奏家の育成に取り組むなど、本県文化の向上発展に大きく貢献した。
令和6年1月10日	戸郷 翔征	2023ワールド・ベースボール・クラシックにおいて、野球日本代表侍ジャパンのメンバーとして優勝に大きく貢献し、広く県民に大きな感動と活力を与え、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。
令和6年6月13日	スカイ・ブラウン	東京オリンピックで初のオリンピック競技として採用されたスケートボード女子パークにおいて銅メダルを獲得し、広く県民に大きな大きな感動と活力を与え、県民の郷土に対する自信と誇りを醸成した。

スポーツランドみやざき特別表彰受彰者一覧

スポーツランドみやざき特別表彰とは

スポーツランドみやざきを推進する本県において、“スポーツランドみやざき”づくりに大きく寄与した本県ゆかりの選手等の顕著な功績を称え、知事特別表彰として顕彰する。

これまでの受彰者は、4名(延べ7名)、1団体

受彰者一覧

受彰年月日	受彰者	受彰理由
平成28年10月4日	大野 将平	リオデジャネイロオリンピック柔道男子73キロ級において金メダルを獲得した。同階級では史上初の金メダル獲得という快挙を達成するなど、広く県民に敬愛され、大きな感動と活力を与えることにおいて、顕著な功績が認められるため。
平成28年10月4日	永瀬 貴規	リオデジャネイロオリンピック柔道男子81キロ級において銅メダルを獲得した。同階級ではシドニーオリンピック以来16年ぶりのメダル獲得という快挙を達成するなど、広く県民に敬愛され、大きな感動と活力を与えることにおいて、顕著な功績が認められるため。
令和3年11月24日	大野 将平	東京2020オリンピック柔道男子73キロ級において金メダルを獲得した。リオデジャネイロオリンピックに続く、2連覇という快挙を達成するなど、広く県民に敬愛され、大きな感動と活力を与えることにおいて、顕著な功績が認められるため。
令和3年11月24日	永瀬 貴規	東京2020オリンピック柔道男子81キロ級において金メダルを獲得した。リオデジャネイロオリンピックの功績を超える快挙を達成するなど、広く県民に敬愛され、大きな感動と活力を与えることにおいて、顕著な功績が認められるため。
令和3年11月24日	池田 向希	東京2020オリンピック陸上男子20km競歩において銀メダルを獲得した。競技種目で日本初のメダル獲得という快挙を達成するなど、広く県民に敬愛され、大きな感動と活力を与えることにおいて、顕著な功績が認められるため。
令和4年2月1日	山本 由伸	東京2020オリンピック野球競技において金メダルを獲得した。野球競技がバルセロナオリンピックで正式なオリンピック競技として採用以来、投手として初の優勝に貢献した快挙を達成するなど、広く県民に敬愛され、大きな感動と活力を与えることにおいて、顕著な功績が認められるため。
令和5年6月27日	野球日本代表 侍ジャパン	2023ワールド・ベースボール・クラシックにおいて、宮崎での事前キャンプを行い、劇的な世界一奪還となる3度目の優勝を果たし、国内外に向け「縁起の良い、結果の出るキャンプ地宮崎」の強力なアピールに最大限貢献いただくとともに、キャンプ・試合期間を通し、県民に大きな感動と勇気を与え、宮崎の活性化に寄与するなど顕著な功績が認められるため。
令和5年8月27日	山本 由伸	2023ワールド・ベースボール・クラシックにおいて、野球日本代表 侍ジャパンとして優勝を獲得し、広く県民に敬愛され、大きな感動と活力を与えるなど、顕著な功績が認められるため。